

● 「ようし、あの夕日に向かって競争だ。」
● 昔のドラマにあった、てれくさい台詞である。
● それでは、夕日に向かって走っていくとどうなるのか。
● 結果はまず、夕日にはおいつかず、夜が来る。
● ここで終わっては何の面白くもない話になるので、もしも話をしよう。
● もし、この夕日についてしまったら、どうなるのかという話である。
● まず、どうして太陽はしずむのかというと、理科でも学習したように、それは地球が回っているからである。
● つまり、夕日は地球がまわるスピードで動いているのである。その速さ時速1700キロ。
● その速さをこえるスピードで太陽に向かっていくと・・・なんと、太陽においつく。
● すると、しずみかけていた太陽はどんどん上へのぼっていき、昼がくる。
● そして、そのまま走り続けると、太陽は東へ進み、朝がくる。まるで時間がもどったように。
● これはまさか、タイムマシンか？と考えた人もいるかもしれない。
● しかし、地球にはひづけが変わる線が引かれており、そこをまたぐと、日づけが一日すすんでしまう。かこにはもどれないのだ。
● つまり、夕日においつくことはできても、時間はかくじつにすすんでいるということである。

問い 1 ふつうに走ったら、夕日においつくことは

できるだろうか

問い 2 時速何キロ以上で走れば、夕日に追いつ

くことができるかと筆者は言っているか。